



えど友ホームページ
<https://www.edo-tomo.jp/>

EDO-TOMO えど友

第126号
 令和8年
 (2026)
 5 - 6

江戸東京博物館友の会会報

目次	江戸東京博物館リニューアルオープン 1~4	2026 年度催事予定 5
	リニューアルオープン祝辞 4	催事案内/会員優待のお知らせ 6~8
	江戸博藤森館長・友の会川上会長代行	

江戸東京博物館リニューアルオープン

4年間の休館を経て、3月31日に江戸東京博物館がリニューアルオープンしました。オープン当日の賑わいや、リニューアルされた館内の様子をお伝えします。

オープン当日はあいにくの小雨模様でしたが、朝早くから多くの人々が詰めかけ、メインエントランス(正面口)前から館の北側を回って清澄通り手前まで、長蛇の列ができていました。ようやく館内に入るとチケットうりばの前にも大行列。係員が対応に大忙しです。購入した人々はエレベーターホールから次々と6階の常設展示室へと上がっていきます。

江戸ゾーンのリニューアル

6階常設展示室に入ると、日本橋の対岸には白のれんが幾重にも重なり、上部の湾曲した天井には富士山の周囲に昼夜や季節の情景が次々に投影されていきます。来館者を江戸の世界へといざなう光の演出です。



▲江戸ゾーン入口

のれんをくぐると、特集展示の甲冑11領がステージ状にレイアウトされた迫力のある空間が広がります。周囲の展示や模型は以前からあるも



▲甲冑展示

のですが、配置が変更されています。5階へのエスカレーター付近には、日本橋本石町にあった「時の鐘」の複製が新たに加わりました。木製の鐘楼も造られており、5階からもよ



▲本石町「時の鐘」

く見えます。

5階に降りて長屋模型の一带を抜けると、江戸の表通りを再現した通路があり、大八車・「朝顔売り」の道具・「天ぷら」の屋台などが並ん



▲江戸の表通り再現

でいます。よしず張りの休憩所もあります。なじみのある展示を見て芝居小屋「中村座」の裏に回ると「名所江戸百景」全点の特集展示(期間



▲中村座内部(歌舞伎の小道具の展示)

限定)があり、中村座入り口脇から中へ入ると内部の様子や小道具が見られます。中村座正面の上には大スクリーンが広がり、こちらにも様々な映像が投影されています。

また、新設された「江戸地廻り経済圏体験スポット」では、大消費都市・江戸を支えた物流の仕組みを体感できます。展示中央の巨大な円形ディスプレイには、野菜や酒、布地などの模型が配されています。タッチパネルで「衣・食・住・その他」の項目を選び、模型に触れると、練馬の大根や小松川の菜など、関東一円に広がった産地が地図上に鮮やかに表示されます。



▲江戸地廻り経済圏体験スポット

新しくなった東京ゾーン

東京ゾーンは、朝野新聞社の社屋を増改築して明治28年(1895)にオープンした時計台のある服部時計店の店内から始まります。この服部時計店の高さは26mあり展示室の天井に触れそうです。8階建てに匹敵する高さで常設展示室の巨大さも理解できました。

銀座煉瓦街の模型は透明な囲いが



▲東京ゾーンの入り口 服部時計店

外され人や乗り物の細部がよく見えるようになりました。新たに展示された浅草花屋敷の門は、明治30年代後半ごろの門を復元した模型です。門の内側には虎の檻があります。浅草花屋敷では虎、ライオン、象、ペンギンなども飼育、展示されていました。



▲浅草花屋敷の門

東京市営乗合自動車(円太郎バス)が新たに展示されました。この円太郎バスは、機械遺産に認定され、国の重要文化財にも指定されました。東京市電気局が乗合自動車事業を開始するきっかけとなったバスで、関東大震災後の東京の復興を支えた11人乗りのワンマンバスです。



▲円太郎バス

震災復興の象徴ともいえる同潤会の代官山アパートメントの復元模型

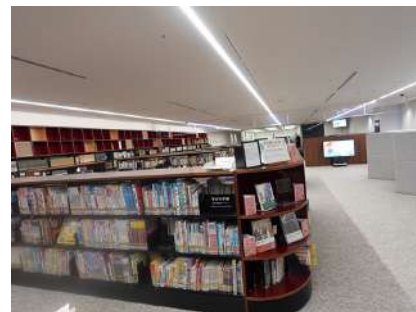


▲同潤会アパートメントの内部

が展示されています。和室では畳を使わず莫蔭が敷かれているのが見えました。莫蔭の下にはコルク材が敷かれていました。コルク材が高価で畳よりコストがかかったようです。

図書室

7階の図書室もすっかり新しくなりました。スペースが拡大され、両国を一望する本のひろばから入ると、全体にとっても開放的で落ち着いたのある、おしゃれなデザインの空間に変わりました。内容も、江戸東京の歴史・文化・伝統に関わる図書、雑誌、図録、研究報告等の資料をここ10年で約9万点増加させ、現在約29万点を収蔵し質・量とも充実させました。さらに、上品で高級感のある木目調の書棚やテーブル、海外からの来訪者に備え多言語対応機器の設置、小中学生向けコーナーの新設など、気配りのあるおもてなしとなっています。入室すると、自然に知的好奇心が刺激され、取りやすくなった書棚から自由に図書を取り出し探求することができます。さらに、司書のレファレンスサービス・閉架資料の閲覧などにより深掘りが可能です。映像コンテンツも充実、例えば東京都が1990年代に収録しながら長年、非公開だった戦争体験者の証言映像も常時公開されるようになりました。最後に、7階にあった和食処はなくなり1階のレストランやカフェの利用に変わりました。



▲図書室の内部

江戸博の施設紹介

JRの両国駅から江戸東京博物館に向かうと左側に赤い鳥居のオブ

ジェが見えてきます。鳥居のモニターを見ながら進み1階の総合案内チケットうりばに行きましょう。いっぽう、大江戸線の両国駅からは、出るとすぐにロゴマークの「目」をあしらったモニュメントがあります。なお3階の屋外広場(江戸東京ひろば)にはチケットうりばがありません。必ず、1階のチケットうりばで、友の会会員証を提示しチケットを入手してください。チケットにはQRコードが表示されていて、常設展示室、特別展示室ではQRコードを読み取って入場できます。



▲JR 両国駅側の赤い鳥居のオブジェ



▲大江戸線両国駅側の「目」をあしらったモニュメント



▲1階総合案内チケットうりば

1階は天井、壁面が一新されました。ミュージアムショップも開放的な感じになりました。レストランは「和ダイニング こよみ」、カフェは「カフェ ippuku cafe」が入っています。

映像投影

再開後の目玉の一つは3階「江戸東京ひろば」の天井と柱への映像投影です。連日17時～20時にかけて、20分のプログラムが8回放映されます。しかし、オープン当日の3月31日と翌4月1日は雨天のため行われませんでした。取材に訪れたのは4月3日でした。

4月3日夕方5時20分、定刻通り音楽は聞こえ出したが、まだ明るく、天井を見上げても何も見えませんでした。時計が7時を回り陽が落ちると、画像が見えるようになりました。四季の移ろいです。今の時期と重なる満開の桜が、天井・柱いっばいに映し出されたのを合図に、次々と画面が展開します。やがて花が散ると新緑の季節が始まります。続いて画面いっばいにひまわりの花が、続いてススキの穂が揺れ木の葉が散ると季節は冬。木々の枝に積もった雪が陽に照らされて輝いています。

強風などの天候の影響や投影機材の整備などによる安全確保のため、急遽、映像投影を中止することもあります。天候不良のときは、XなどのSNSで確認してください。

なお土曜日は、開館時間が9時30分～19時30分となっているので、



▲投影された映像①



▲投影された映像②

この日がお勧めかもしれません。

特別イベント

1日限りのスペシャルイベントが3月31日に多数開催されました。まずは、和太鼓団体による太鼓パフォーマンスがオープニングを飾りました。引き続き墨絵パフォーマンスが、同じメインエントランス付近で披露されました。また、華やかで活気あふれる江戸大神楽でも、伝統のパフォーマンスがありました。昼からは風雨となり、時折吹き込む強風は曲芸には厳しいコンディションとなりましたが、さすがの名人芸で見事に成功でした。いっぽう5・6階の常設展示室では、令和によみがえった江戸の町人たちが展示室をぶらぶらしていました。遭遇できた人は幸運かも？ 江戸時代の主要な乗り物である町駕籠も5階展示室に現れ、体験することができました。午後には、江戸の粋や季節の情緒を伝える端唄三味線が披露されました。このイベントだけは1回限りで15分という短い時間でしたが、観客からは手拍子なども巻き起こり楽しいひとときとなりました。そして、16時から本日の掉尾を飾り、大ホールで日本舞踊の特別公演がありました。日本舞踊協会による長唄「二人道成寺」が披露され、華麗なる舞いに観客一同うっとりで見入っていました。この公演のみ整理券が配布されましたが、ほどなく満席になったようです。記者は配布の30分前に列に並び手に入れることができました。



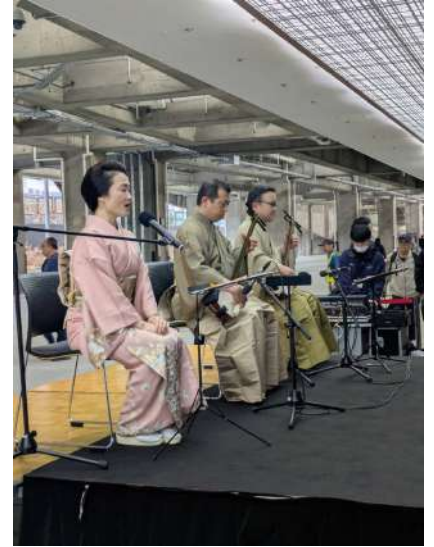
▲和太鼓パフォーマンス



▲墨絵パフォーマンス



▲ぶらぶら町人（町娘）



▲端唄三味線



▲江戸大神楽



▲町駕籠体験

【取材】文・写真：広報部会・菊池真一 / 同・秋元康良 / 同・前田太門 / 同・前田卓雄 / 同・光田憲雄 / 同・福田 徹

リニューアルオープンのご挨拶

東京都江戸東京博物館 館長 藤森照信

長いような短いような4年間を終え、このたび、リニューアルオープンの日を迎えることになりました。

リニューアルは、古くなった諸設備の更新と、展示のレベルアップを課題として進めましたが、実現した内容を目にすると、新規のオープンのように見えます。館へのアプローチを魅力的なものに変えましたし、展示は「入ってのお楽しみ」と言いたくなるほどの充実ぶりです。その一部を言いますと、銀座の四丁目に服部時計店の高い時計塔が立ち上がり、暗かった空には青空が広がり、鳥が飛んでいます。

友の会の皆さまが知人友人に「ぜひ行ったらいいよ」と自慢できるようリニューアルになりました。

ご挨拶

江戸東京博物館友の会 会長代行 川上由美子

江戸東京博物館のリニューアルオープンを心よりお慶び申し上げます。休館中も会員の皆様のご理解とご支援に支えられ、友の会の活動をつなぐことができました。再びこの場で皆様と集えることを大きな喜びとしております。離れていた時間の中で、博物館の存在、友の会の存在の大切さを改めて実感いたしました。これからは、セミナー、見学会、古文書講座等に加えて会員同士の交流の機会を広げ、学びと親しみのある活動を充実させてまいります。新たな一歩を皆様とともに歩んでいきますよう、引き続きご参加とご協力をお願い申し上げます。

友の会会長の待場浩さんが、一身上の都合により会長職を退かれることになりました。長い間友の会の活動を支えてくださいましたことを心より感謝いたします。

2026年度催事予定

1. 友の会セミナー

会場：千代田区立日比谷図書文化館コンベンションホール。9月以降は、江戸博1階大ホール。

No	実施予定日	テーマ・演目	講師 (敬称略)	募集人数	案内掲載 『えど友』
1	6月28日(日)	江戸の災害～二大噴火(宝永と天明)について	桐原総一	200	126号
2	7月25日(土)	羽柴秀長の生涯と実像	柴 裕之	200	126号
3	9月13日(日)	藤森館長特別講演(総会后開催) 日本の住宅の原点を求めて	藤森照信	250	127号
4	12月(予定)	江戸の飛脚(仮)	巻島 隆	250	
5	2027年1月(予定)	小栗上野介と勝海舟(仮)	岩下哲典	250	

2. 友の会古文書講座

会場：水道橋貸会議室内海・本館東京学院ビル2階教室。秋期以降は、江戸博1階会議室。

期	実施講座	講師 (敬称略)	実施予定日	募集人数	案内掲載 『えど友』
春期	入門編・午前・午後 (各3回)	世川祐多	4月18日(土)、5月30日(土)、6月20日(土)	64	申込終了
	初級編・午前・午後 (各3回)	安藤奈々	4月1日(水)、5月20日(水)、6月17日(水)	64	申込終了
	中級編・午後 (3回)	吉成香澄	4月3日(金)、5月15日(金)、6月12日(金)	64	申込終了
秋期	入門編・午前・午後 (各3回)	世川祐多	9月19日(土)、10月17日(土)、11月 未定	80	127号
	初級編・午前・午後 (各3回)	安藤奈々	9月16日(水)、10月21日(水)、11月 未定	80	127号
	中級編・午後 (3回)	吉成香澄	9月25日(金)、10月9日(金)、11月 未定	80	127号

3. 友の会見学会

No	実施予定日	テーマ	募集人数	案内掲載『えど友』
1	6月7日(日)	「我が町」 両国界隈を歩く	100	126号
2	9月(予定)	リニューアルなった常設展を楽しむ	100	127号
3	11月7日(土)	巢鴨 =おばあちゃんの原宿を歩く=	100	128号
4	2027年1月7日(木)	恒例七福神巡り 下谷七福神	100	129号
5	3月(予定)	切絵図片手に江戸散歩	100	

※各催事の日程・テーマなどは変更になる場合があります。

- ◆セミナーと古文書講座は、26年度の前半まで、外部会場での実施となります。江戸博の大ホールと会議室で実施できるようになるのは、9月からです。
- ◆総会は9月13日に、大ホールを使用して行われます。総会后に館長の特別講演があるのは通例になっていますが、今回はそれを一般公開とし、参加費も無料とします。多くの人に友の会のセミナーを楽しんでいただき、入会につなげるチャンスとしたいと思っています。

催事案内

古文書講座

◆4月から26年度春期講座を開講中

講座は開講中です。日程を下記にご案内します。

なお、秋期講座は9月開講。申込受付は7月からです。

◆入門編：午前・午後2クラス

- 講師：世川祐多
- 開催日：4/18(土)、5/30(土)、6/20(土)

◆初級編：午前・午後2クラス

- 講師：安藤奈々
- 開催日：4/1(水)、5/20(水)、6/17(水)

◆中級編：午後1クラス

- 講師：吉成香澄
- 開催日：4/3(金)、5/15(金)、6/12(金)

● 時間：各講座とも

午前は10時30分～12時30分、午後は14時～16時

● 会場：貸会議室内海 本館東京学院ビル 2階教室

【企画担当責任者】川上由美子(事業部会)

友の会セミナー

江戸の災害～二大噴火(宝永と天明)について

講師 桐原 総一さん(博物館学研究者)

◆日本は度々自然災害に見舞われ多くの人命が失われてきました。否応なしにこれらの自然災害に関心を持たざるを得ません。災害といっても、風水害、火山噴火、地震など多義にわたります。特に江戸時代の二大噴火(宝永と天明)は、現代の私たちにとって「予想外」を「想定内」に変えるための重要な教訓に満ちています。歴史を「自分事」にするために絵図・日記・古記録・実物資料など、単なる記録ではなく「未来への警告」としての史料です。これらをたどってみたいと思います。

◆講師略歴：きりはら・そういち

昭和26年(1951)生まれ。昭和51年国学院大学文学部史学科を卒業。大学院博物館学研究室にて特別教授。千葉県教諭職を経て、博物館学等の各種講師を務めている。現在は、全日本博物館学会、エコミュージアム研究会に所属。博物館学の立場から、町づくりへの支援なども行っています！

著書：『学校博物館百景』過去・現在・未来(論書房)、共著：『遣唐使井真成の墓誌』(ミネルヴァ書房)2009刊。

- 開催日時：6月28日(日)14時～15時30分
- 申込受付開始：郵送5月1日、ネット6月1日
- 申込締切：郵送、ネットとも6月15日(月)必着

- 会場：日比谷図書文化館コンベンションホール
- 定員：200人、同伴者可(氏名、電話番号連記)
- 参加費：会員1,000円、同伴・一般1,200円(当日払い)

【企画担当責任者】國定美津子(事業部会)



AIによる富士山噴火予想写真

羽柴秀長の生涯と実像

講師 柴 裕之さん(東洋大学・駒澤大学非常勤講師)

◆2026年NHK大河ドラマは、羽柴(豊臣)秀長を主人公とした「豊臣兄弟！」が放映されています。秀長とはどのような人物だったのでしょうか。秀長について、弟として兄の天下人となった秀吉を支えた「補佐役」として知られています。しかし、その実像については、兄の功績の影に隠れていたうえ、これまで研究も進んでいなかったこともあり、よくわかっていませんでした。この講演では、彼の関係史料の蒐集と検討からみえてきた、その生涯における歩みを確認したうえ、彼の実像について探ります。また、兄の秀吉との関係、秀吉・秀長兄弟のもとで豊臣政権がどのようにあったのかについてもみていきたいと思います。

◆講師略歴：しば・ひろゆき

東洋大学大学院博士後期課程満期退学、博士(文学)。現在は東洋大学文学部、駒澤大学文学部非常勤講師。2026年NHK大河ドラマ「豊臣兄弟！」の時代考証を務める。著書に『織田信長』(平凡社、2020年)、『秀吉と秀長』(NHK出版新書、2025年)、編著に『図説 豊臣秀吉』(戎光祥出版、2020年)、『図説 徳川家康と家臣団』(戎光祥出版、2022年)など

- 開催日時：7月25日(土)14時～15時30分
- 申込受付開始：郵送5月1日、ネット7月1日
- 申込締切：郵送、ネットとも7月15日(水)必着
- 会場：日比谷図書文化館コンベンションホール
- 定員：200人、同伴者可(氏名、電話番号連記)
- 参加費：会員1,000円、同伴・一般1,200円(当日払い)

【企画担当責任者】川上由美子(事業部会)



▲大和郡山城

見学会

「我が町」両国界隈を歩く

◆両国は、明暦の大火後架橋された両国橋の両側の広小路に、見世物小屋、寄席、屋台が立ち並んで賑わった、上野、浅草と競う大繁華街。回向院は相撲の聖地であり、隅田川の花火もここから始まっています。江戸の華の集積地ですね。

その両国の町に建つ江戸博が4年の休館を終えてリニューアルオープンしました。この機会に江戸博と友の会のゆかりの地である両国を、新たな気持ちで巡りたいと思います。

両国駅をスタートして時計と反対回りに、両国橋～回向院～吉良邸跡～北斎美術館～横網町公園～旧安田庭園～国技館と江戸博の周りを一周します。知っているところばかり、いえ、「～」のところに、今まで気付かなかった両国がきっと見つかると思います。探しに行きましょう！

- 開催日：6月7日(日)小雨決行、受付後順次出発
- 受付：12時15分～12時45分 (時間厳守)
- 集合場所：JR 中央総武線各停 両国駅西口改札
- 解散場所：JR 中央総武線各停 両国駅西口改札
- 申込受付開始：郵送5月1日、ネット5月14日
- 申込締切：郵送・ネットとも5月28日(木)必着
- 定員：100人(会員外は申込時氏名・住所・電話連記)
- 参加費：会員1,000円 会員外1,200円(当日払い)

【企画担当責任者】川上由美子(事業部会)



▲両国橋



▲吉良邸跡

【催事の申込方法】 催事に参加ご希望の方へ

はがきでのお申し込み

会報『えど友』の催事案内をご覧になり、以下の要領で、はがきでお申し込みください。

◆通常はがき (85円) に、

- ①催事名 (略名可) と開催日
- ②会員番号 (必須)
- ③氏名
- ④電話番号を明記

* 同伴者は、氏名、電話番号を連記。見学会のみ保険加入のために同伴者の住所も必要です。

◆申込先：〒130-0015 東京都墨田区横網1-4-1
江戸東京博物館「友の会事務局」

◆セミナー、見学会の申込は1通で複数の催事申し込み可。古文書講座は、古文書講座だけでお申し込みください。講座の複数申し込みは可です。

◆セミナー、見学会の参加者には、締切数日後に「参加のご案内」を一斉にお送りします。それまでお待ちください。

◎WEBでのお申し込み

催事案内ホームページで、会報『えど友』やネットの催事案内をご覧になり、WEB経由、申込フォームからお申し込みください。

◆メールアドレスを登録されている方には：

催事案内がホームページに掲載された時、一斉メールを発信してお知らせいたします。

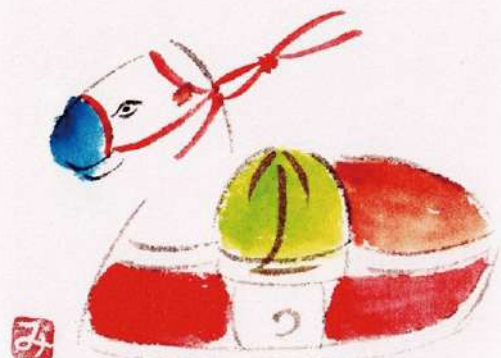
また、WEBによる申込受付の開始時に、メール一斉発信で申込フォームのURL等をお知らせ致します。

◆参加者には締切後メールで「参加のご案内」をお送りします。

◎共通事項

●お申し込みにあたって：以上の申込要領をご参照いただきお申し込みください。なお、応募者多数の場合は抽選となる場合がありますのでご了承ください。

●催事参加の際は本人確認のため会員証をお持ちください。



カット：佐藤美代子さん

会員特典のご案内

リニューアルオープン後の友の会会員特典は以下のとおりです。

1. 会員に役立つ各種情報を送付

会報『えど友』をはじめ、各種の情報をお届けします。

2. 常設展がいつでも無料

3. 特別展が半額+同伴者1名2割引

4. ミュージアムショップ、レストランでの5%割引

*ただし、一部の商品を除きます。

5. 東京都歴史文化財団の各施設での特典がプラス

- 江戸東京たてもの園
- 東京都庭園美術館
- 東京都写真美術館
- 東京都現代美術館
- 東京都美術館
- 東京文化会館

(東京文化会館は令和8年5月7日より令和10年度中まで休館です)

常設展、企画展の観覧料、ミュージアムショップ、レストラン、カフェなどでの割引があります。

※特典を利用するときは、会員証の提示が必要です。

広報部会員募集中

令和4年3月発行の第125号を最後に休刊していた会報『えど友』が、江戸博リニューアルオープンに合わせて4年ぶりに再刊することとなりました。引き続きのご愛読をお願いします。

広報部会では『えど友』の編集・発行にご協力いただける部会員を募集しています。「友の会」の各種催事の取材、記事作成、写真撮影などの他、独自取材の記事作成も行っています。大変やりがいのある活動です。

ご興味・ご関心のある方は次のメールアドレスにご連絡ください。edotomo2001@gmail.com

多くの方の参加をお待ちしています。

(広報部会一同)

会員優待のお知らせ

好評開催中!

江戸東京博物館リニューアル記念特別展 「大江戸礼賛」

会期：4月25日(土)～5月24日(日)

会員：一般650円、65歳以上330円、
大・専門生520円、高・中・小学生無料

同伴者：一般1,040円、65歳以上520円、

大・専門生830円、高・中・小学生無料

●(注)割引を受けられる同伴者は1人だけです。

江戸東京博物館リニューアル記念特別展 「洋館 明治の夢と挑戦」

会期：6月23日(火)～8月23日(日)

会員：一般800円、65歳以上400円、

大・専門生640円、高・中・小学生無料

同伴者：一般1,280円、65歳以上640円、

大・専門生1,020円、高・中・小学生無料

●(注)割引を受けられる同伴者は1人だけです。

企画展のご案内

「市民からのおくりもの 令和3～7年度 新収蔵品展」

会期：4月25日(土)～5月17日(日)

会場：常設展示室内 5階企画展示室

次回予告

「発掘された日本列島 2026」

会期：6月13日(土)～7月26日(日)

会場：常設展示室内 5階企画展示室

休館日

5月							6月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
					1	2		1	2	3	4	5	6
3	4	5	6	7	8	9	7	8	9	10	11	12	13
10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	20
17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	27
24	25	26	27	28	29	30	28	29	30				
31													

会報<えど友>第126号

令和8年5月1日発行(奇数月1日発行)

編集・制作：江戸東京博物館友の会広報部会

E-Mail: edotomo2001@gmail.com

発行人：川上由美子(会長代行) 編集長：菊池真一

中村貞子、内匠屋京子、佐藤美代子、前田太門、光田憲雄、横島利明、
福田 徹、秋元康良、前田卓雄

発行：江戸東京博物館友の会

〒130-0015 東京都墨田区横網1-4-1